

VMAJ ベンダーマネージャー育成プログラム

Autodesk

ライセンス・クラウドサービス ベンダーマネジメント 実務ガイド

版	v1.1
作成日	2026 年 6 月
作成者・発行者	イタムス株式会社 (ITAMS)
対象読者	Autodesk ベンダーマネージャー・調達担当・SAM 担当・IT 部門
収録章	全 9 章 (ライセンス体系/メトリック/仮想化・クラウド/計測ツール/台帳・ELP/契約ライフサイクル/監査対応/高リスク領域/ガバナンス)

【注意事項・要確認事項について】

本ガイドは Autodesk 公式公開情報（一次情報）に基づく実務参考資料です。個別の EBA 等の追加合意が本ガイドより優先されます。法的判断が必要な場合は法務専門家にご確認ください。

目次	
目次	3
はじめに — VMAJ 教育体系における本資料の位置づけ	5
第 1 章 Autodesk ライセンス体系と契約文書の階層	6
1-1. 契約文書の優先順位構造	6
1-2. 製品ポートフォリオと契約形態	6
第 2 章 ライセンスメトリック算定と実務管理	8
2-1. Single User メトリック	8
2-2. Flex トークンメトリック	8
2-3. APS / Capacity / Cloud Credits	9
第 3 章 仮想化・クラウド環境でのライセンスルール	11
3-1. 仮想化権 (Desktop 製品)	11
3-2. APS (Autodesk Platform Services) クラウド API	11
3-3. BYOS (Bring Your Own Subscription)	12
第 4 章 必須計測ツールと管理義務	13
4-1. Autodesk による自動接続・検証義務	13
4-2. SAM ツール統合と Reporting API	13
第 5 章 エンタイトルメント台帳・ELP 管理	15
5-1. ELP 構成要素	15
5-2. ELP 維持プロセス (月次・年次)	15
第 6 章 契約ライフサイクルと更新管理	17
6-1. 契約変更・更新のルール	17
6-2. Flex vs Subscription の最適組み合わせ	17
第 7 章 監査対応と証跡保管	18
7-1. Autodesk の監査権 (Section 17.8)	18
7-2. 監査通知後の緊急対応プラン (15 日 Runbook)	18
7-3. 常時保管が必要な証跡 (15 日即応体制)	19
第 8 章 Autodesk 固有の高リスク領域と対策	20
第 9 章 ガバナンス体制とコスト最適化	22
9-1. ガバナンス RACI と Admin ロール	22
9-2. SAM 成熟度モデル (ISO/IEC 19770-1 ベース)	22
9-3. コスト最適化レバナー一覧 (一次情報確認済)	23
付録 A 一次情報台帳	25
付録 B 演習シナリオ集 (4 件)	27
シナリオ 1 : Flex トークン枯渇による本番プロジェクト停止	27
シナリオ 2 : 監査通知から 15 日以内の証跡提出要求	27

シナリオ 3 : Education 版の施設管理業務への流用	28
シナリオ 4 : APS 多重利用 (Multiplexing) 違反と生成 AI 統合リスク	28
付録 C 12 ポイント評価チェックシート	30

はじめに – VMAJ 教育体系における本書の位置付け

本資料は、イタムス株式会社（ITAMS）が提供する VMAJ の「ベンダーマネージャー育成プログラム」の一環として、Autodesk のライセンス・契約管理に特化した包括的実務ガイドです。

VMAJ の教育体系では、ベンダーマネジメントの中核を「Demand-to-Contract-to-Service Control（需要・契約・サービス供給のマッチング統制）」として定義しています。ビジネス部門から発生するライセンス要求・サービス要求を、契約条件・使用許諾条件・供給能力・コスト制約に適合させる能力がベンダーマネージャーに求められます。

本資料の構成：

- 第 1 章 Autodesk ライセンス体系と契約文書の階層
- 第 2 章 ライセンスメトリック算定と実務管理
- 第 3 章 仮想化・クラウド環境でのライセンスルール
- 第 4 章 必須計測ツールと管理義務
- 第 5 章 エンタイトルメント台帳・ELP 管理
- 第 6 章 契約ライフサイクルと更新管理
- 第 7 章 監査対応と証跡保管
- 第 8 章 Autodesk 固有の高リスク領域と対策
- 第 9 章 ガバナンス体制とコスト最適化

第1章 Autodesk ライセンス体系と契約文書の階層

1-1. 契約文書の優先順位構造

【キーマッセージ】 顧客が締結するすべての追加合意（EBA 等）が最上位に立つ。"全体合意条項"により顧客側 PO の追加条件は原則無効となる。

Autodesk との契約は複数の文書が階層構造を形成しており、優先順位の理解が不可欠です。

優先順位（低→高）	文書名	最終更新	主な内容
低	General Terms（汎用条件）	2026年3月30日	基本利用条件・監査条項・解約条件
↑	Special Terms（製品固有条件）	2025年12月8日	製品別の使用権・Usage Data 収集
↑	Offering Types and Benefits	2026年6月7日	ライセンス種別ごとの権利定義
↑	Acceptable Use Policy（AUP）	2025年12月8日	禁止行為の列挙
最高	Additional Agreement（EBA 等）	個別契約による	EBA・特別条件（該当する範囲で優先）

根拠：General Terms Section 17.12（2026年3月30日）

また、DPA（Data Processing Agreement）は個人データを処理するサービスに適用される場合、本 Terms と矛盾する個人データ処理の範囲において優先して適用されます。

⚠ 実務チェックポイント

<input type="checkbox"/>	EBA の全文を取得・保管し、General Terms との差異を台帳に記録している
<input type="checkbox"/>	Direct Order Terms の最新版を確認し、PO 条件との優先関係を確認している（顧客 PO 追加条件は Autodesk 書面同意なし不受理）
<input type="checkbox"/>	DPA の適用範囲（個人データを処理する Autodesk 製品の特定）が完了している
<input type="checkbox"/>	各 Terms の更新をモニタリングする担当者が定められている

1-2. 製品ポートフォリオと契約形態

【キーマッセージ】 Autodesk は 4 つの事業領域・5 種類の契約形態を持つ。混在環境では条件が複雑に絡み合

う。

事業領域	主要製品
AEC（建築・土木）	Revit, AutoCAD, Civil 3D, Navisworks, BIM Collaborate, Forma
PD&M（製品設計・製造）	Inventor, Fusion, AutoCAD Mechanical, Nastran
M&E（メディア・エンタメ）	Maya, 3ds Max, Arnold, Mudbox
クラウドサービス	Autodesk Construction Cloud（ACC）, APS, Autodesk Docs

契約形態は以下の 5 種類が存在します。

契約形態	概要	プラン	注意点
Subscription （Single User）	1 ユーザー×1 ライセンス	Included benefits / Business Success Plan / Enterprise Plan	旧名称 Standard/Premium/Enterprise から 変更
Flex（Prepay）	トークン制・24 時間 単位消費	—	残高ゼロ=即時停止（猶予なし）
Token Flex （EBA）	EBA に基づくトークン 型	EBA 条件による	残高ゼロでも継続、超過後払い（EBA 条件に従う）
Education	教育機関向け優待	—	施設管理・商用利用禁止
レガシー	Multi- User/Maintenance	—	新規販売終了、残存確認要

▲ 実務チェックポイント

<input type="checkbox"/>	全社の現行ライセンス種別をマッピングし、各種別に適用される Terms を確認している
<input type="checkbox"/>	レガシーライセンス（Multi-User/Maintenance）の残存有無を確認している
<input type="checkbox"/>	プラン名称の変更（旧 Standard→Included benefits 等）を台帳・社内資料に反映している

第2章 ライセンスメトリック算定と実務管理

2-1. Single User メトリック

【キーマッセージ】 ユーザーID の 1 対 1 対応が大原則。同時利用は Desktop 1 台 + Mobile 1 台のみ。

項目	規定内容	根拠
基本原則	1 Autodesk ID = 1 ユーザー (Named User 方式)	General Terms Section 4
同時利用上限	Desktop 1 台 + Mobile 1 台 (同時)	Offering Types and Benefits
バックグラウンド処理	Batch/Render/Idle は同時利用カウント外	Special Terms
Authorized User の定義	社員 + 自社施設・PC で働く委託業者・コンサルタント	Offering Types and Benefits
外部業者 (自社 PC 以外)	別途ライセンスが必要	General Terms
ID 共有	明示的に禁止	General Terms Section 4

⚠ 実務チェックポイント

<input type="checkbox"/>	退職者・休職者の Autodesk ID が即座に無効化・未割り当て化される手順がある
<input type="checkbox"/>	委託業者・コンサルタントへの提供ライセンスが「自社施設・自社 PC」要件を満たしている
<input type="checkbox"/>	Single User ライセンスで同一ユーザーが複数デバイスで使用していないことを確認している

2-2. Flex トークンメトリック

【重要】 Flex Prepay は残高ゼロ = 即時業務停止。Token Flex (EBA) とは挙動が根本的に異なる。

比較項目	Flex Prepay	Token Flex (EBA)
残高ゼロ時	即時アクセス停止 (猶予なし)	継続アクセス可 (EBA および対象 Offering 条件に従う)
超過利用	購入が必要 (即時)	超過分を後払い (EBA 条件による)
有効期限	購入日から 12 ヶ月	EBA 契約期間による
返却	購入から 30 日以内のみ	EBA 条件による
最小購入	33 トークン/\$99 (2026 年 6 月～)	EBA 最低コミットメントによる

主要製品の Flex トークンレート (2026 年 6 月確認)

製品	レート (tokens/day)	製品	レート (tokens/day)
----	------------------	----	------------------

AutoCAD	7	Inventor	8
Revit	10	Fusion	3
Civil 3D	9	Maya	6
Navisworks	9	3ds Max	6
PowerMill Ultimate	47 ⚠️ 高コスト	Mudbox	1
Netfabb	18 ⚠️ Rate Sheet 値	Netfabb Local Simulation	205 ⚠️ 超高コスト

ボリュームディスカウント

購入数量	単価 (USD)	割引率
~4,999	\$3.00/token	—
5,000~9,999	\$2.93/token	△2.3%
10,000~14,999	\$2.85/token	△5.0%
15,000~24,999	\$2.78/token	△7.3%
25,000~49,999	\$2.70/token	△10.0%
50,000~99,999	\$2.63/token	△12.3%
100,000~249,999	\$2.55/token	△15.0%
250,000 以上	\$2.40/token	△20.0%

⚠️ 実務チェックポイント

<input type="checkbox"/>	Flex 利用ユーザーに「残高低下通知」の受信体制が整っている
<input type="checkbox"/>	年間使用予測 (Estimator Tool 活用) に基づく適切な購入量を設定している
<input type="checkbox"/>	高コスト製品 (PowerMill Ultimate: 47T/日、Netfabb: 18T/日、Netfabb Local Simulation: 205T/日) の利用者に Flex を割り当てていない
<input type="checkbox"/>	12 ヶ月有効期限を考慮した購入タイミング管理ができている
<input type="checkbox"/>	Token Flex (EBA) との区別を把握し、Flex Prepay のリスクを組織内で共有している

2-3. APS / Capacity / Cloud Credits

メトリック種別	概要
---------	----

Capacity Offering	Exhaustible Units (消費型・月次リセット) / Returnable Units (再利用型)
APS (3 オプション)	Free (月次制限あり) / Prepay (Flex トークン) / Pay as You Go (後払い)
APS 2026 年 8 月 17 日変更	AEC / Manufacturing Data Model APIs が Free tier 超過は有料化 (要対応)
Cloud Credits	Flex トークンに統合中。旧 Cloud Credits は期限切れ後に Flex へ移行

第3章 仮想化・クラウド環境でのライセンスルール

3-1. 仮想化権 (Desktop 製品)

【キーマッセージ】仮想化の可否は「購入タイプ」で決定する。Single User・Flex・EBA はソフトウェア仮想化許可。Multi-user (ネットワークライセンス) はソフトウェア仮想化禁止。

購入タイプ	ソフトウェア仮想化	サーバーコンポーネント仮想化	注意点
Single User subscription	許可	N/A	サインイン必須。MAC アドレス非保持環境では毎セッションのサインインが必要
Flex	許可	N/A	24 時間単位でトークン消費。仮想環境でも同様
Enterprise Business Agreement (Token Flex)	許可	許可 (Off-premises 含む)	クラウド上サーバーコンポーネントも可。適切なセキュリティ確保が条件
Multi-user subscription (レガシー)	禁止	許可 (LAN/WAN/VPN)	新規販売終了。ソフトウェア仮想化 (VDI 等) は不可。移行計画を要策定

根拠: Autodesk Virtualization Policy (autodesk.com/support/account/admin/manage/virtualization、2026 年 6 月 26 日直接確認済)

⚠ 実務チェックポイント

<input type="checkbox"/>	VDI/VMware/Azure Virtual Desktop 等の仮想環境で利用している製品の「購入タイプ」を特定し、仮想化の許可/禁止を確認している
<input type="checkbox"/>	Multi-user (ネットワークライセンス) でソフトウェア仮想化 (VDI 等) を実施していないか確認している (禁止)
<input type="checkbox"/>	EBA (Token Flex) でクラウドサーバーコンポーネントを Off-premises (クラウド) に移設する場合、セキュリティ要件 (アクセス制御等) を確認している

3-2. APS (Autodesk Platform Services) クラウド API

アクセスオプション	概要	注意点
Free	月次制限あり。PoC・検証用	月次上限到達で API ブロック
Prepay (Flex)	Flex トークン消費。Team 単位	Flex と PAYG は両方設定可能 (Flex 優先→枯渇後 PAYG 自)

	で設定	動切替)
Pay as You Go	後払い消費型	Token Flex Enrollment と PAYG の同時利用は不可

【重要：2026年8月17日変更】AEC Data Model APIs および Manufacturing Data Model APIs が有料化。Free tier 超過には対象サブスクリプションまたは有償 APS が必要。EBA 顧客でも対象 Subscription なしは消費ベース課金の可能性あり。

⚠ 実務チェックポイント

<input type="checkbox"/>	APS 無料枠の制限値を把握し、有料移行タイミングを管理している
<input type="checkbox"/>	APS Data Model API の 2026 年 8 月 17 日変更への対応が計画されている
<input type="checkbox"/>	APS アプリが対象サブスクリプションと同じ Team に配置されているか確認している
<input type="checkbox"/>	商用開発（外部向け SaaS 等）には Developer Terms 締結が別途必要であることを確認している

3-3. BYOS (Bring Your Own Subscription)

BYOS は外部プロジェクト参加時に自社サブスクリプションを「持参」するモデルです。

適用製品	注意事項
BIM Collaborate Pro、BIM Collaborate	外部プロジェクト参加時に自社ライセンスで参加可
Autodesk Docs (AEC Collection 経由)	ホストプロジェクト側との役割・権限設定を確認
Fusion、Fusion Team、Fusion Manage	BYOS 適用範囲は Subscription & Offerings Terms を参照

第4章 必須計測ツールと管理義務

4-1. Autodesk による自動接続・検証義務

【キーマッセージ】 Autodesk はサブスクリプション検証のため自動インターネット接続を要求する。これへの同意が利用条件。

条項	内容	実務上の意味
General Terms Section 8.2	自動インターネット接続・サブスクリプション検証への明示的同意規定	ファイアウォール・プロキシで認証サーバーをブロックすると利用不可に
AUP Item 3	技術的保護措置の無効化・除去禁止（リモート追跡メカニズム含む）	Usage Data 収集を阻止するツール使用は違反
Usage Data (NLRM/NLRS)	Autodesk がネットワーク経由で稼働状況を自動収集	監査時のエビデンスとして活用される

⚠ 実務チェックポイント

<input type="checkbox"/>	ファイアウォール・プロキシ設定が Autodesk 認証サーバーへの接続を許可している
<input type="checkbox"/>	Usage Data の収集に関して ISMS・プライバシーポリシーとの整合性を確認している
<input type="checkbox"/>	監査対応用に Usage Report (Autodesk Account) の定期取得・保管体制がある

4-2. SAM ツール統合と Reporting API

機能	Included benefits	Business Success Plan	Enterprise Plan
Usage Reporting	○	○	○
Reporting API (SAM ツール連携)	×	○	○
Directory Sync (SCIM/AD 連携)	×	○	○
Business Success Plan 最低要件	—	最低 50 サブスクリプション	要問い合わせ

【2026 年廃止予定：Usage Export】 Autodesk Account の Reporting > Usage Export（日別生データ）は 2026 年中に廃止予定。代替として Seat Usage (manage.autodesk.com/seats/summary) および Token Usage (manage.autodesk.com/flex/summary) ページへの移行を推奨。早期に移行体制を整備すること。根拠：[/support/account/admin/usage/usage-report](https://support.autodesk.com/admin/usage/usage-report) (2026 年 6 月 26 日確認)

⚠ 実務チェックポイント

<input type="checkbox"/>	SAM ツール (Snow/Flexera 等) と Autodesk Account の Reporting API 接続が設定されている (Business
--------------------------	--

	Success Plan 必要)
<input type="checkbox"/>	月次で Usage Report を取得し、未使用・過剰割り当てシートを特定している
<input type="checkbox"/>	Usage Export (旧来の日別 CSV エクスポート) への依存を廃止し、Seat Usage / Token Usage ページへの移行計画がある (2026 年中に廃止予定)
<input type="checkbox"/>	Directory Sync を活用した退職者・組織変更の自動反映体制がある
<input type="checkbox"/>	Autodesk Inventory Tool (AIT) の所在を把握し、監査通知時に即座に取得できる体制がある

第5章 エンタイトルメント台帳・ELP 管理

5-1. ELP 構成要素

台帳項目	内容
製品情報	製品名・バージョン・エディション
契約形態	Subscription/Flex/Token Flex/Education/Legacy の別
ライセンス数	購入数・割り当て済み数・未割り当て数
期間情報	契約開始日・終了日・自動更新日
Special Terms 適用	Maya/3ds Max バッチ、教育版等の特別条件の適用有無
仮想化対応	Virtualization List 掲載有無（仮想化利用の場合）
証跡	購入証明・割り当て履歴・利用レポートへの参照

5-2. ELP 維持プロセス（月次・年次）

月次サイクル（ChatGPT Phase 3 補完 + Phase 2B 確認）

ステップ	作業内容	ツール
1. Entitlement 取得	Autodesk Account から契約・Team・製品・Flex Token・期限を取得	Autodesk Account / Reporting API
2. Assignment 取得	ユーザー別・製品別割り当てを取得	Autodesk Account
3. Usage 取得	Seat Usage・Token Usage・Business Success Plan Reporting API	Usage Report / SAM ツール
4. Identity 突合	HR/SSO/退職者/外部委託先/休職者と照合	AD / HR System
5. Install 突合	SCCM・Intune・Jamf 等のインベントリと照合	SAM ツール / Endpoint Mgmt
6. 差分分類	未使用割当・退職者 ID・共有 ID 疑い・Token 異常消費を特定	台帳 / SAM ツール
7. 是正	割当解除・Subscription⇔Flex 切替・BYOS 確認・Education 分離	Autodesk Account
8. 証跡保管	月次 ELP・利用レポート・是正ログ・承認履歴を監査証跡化	台帳・ドキュメント管理

年次サイクル（更新前 90 日以内）

- ELP 全体の過剰/不足分析（Autodesk Account Usage Report + SAM ツール）

- Flex vs Subscription の最適組み合わせ再評価 (Estimator Tool 活用)
- プラン変更 (Business Success Plan への移行等) の費用対効果評価
- Business Success Plan 要件確認 (最低 50 サブスクリプション)

⚠ 実務チェックポイント

<input type="checkbox"/>	ELP 台帳が月次で更新され、承認者が存在している
<input type="checkbox"/>	年次更新前に Usage Report を使ったオーバー/アンダーライセンス分析を実施している
<input type="checkbox"/>	Flex トークンの 12 ヶ月有効期限を考慮した購入計画がある
<input type="checkbox"/>	Flexera One 等 SAM ツールは Reporting API 経由で Autodesk SaaS 統合可能 (Business Success Plan / Enterprise Plan のみ)。不足データは Autodesk Account エクスポートで補完する体制がある

第 6 章 契約ライフサイクルと更新管理

6-1. 契約変更・更新のルール

ライセンス種別	更新方式	注意点
Subscription	自動更新 (opt-out 必要)	General Terms Section 17.2 : 規約変更は 30 日以内に拒否可。拒否時は OfferingTerm が終了または 180 日後アクセス終了
Flex Prepay	自動更新なし	購入日から 12 ヶ月で失効、残高は失効。30 日以内のみ返却可能
Token Flex (EBA)	EBA 契約条件による	True-Up・True-Forward の頻度・条件は EBA 個別合意による
Capacity Offering	自動更新 (opt-out 必要)	更新時の数量変更を忘れず確認

6-2. Flex vs Subscription の最適組み合わせ

利用頻度	推奨形態	根拠
週 3 日以上	Subscription (無制限アクセス)	Flex トークン節約
週 1~2 日以下	Flex (24 時間単位)	必要な時だけ課金
不定期・大量短期	Flex (複数同時活性化)	繁忙期だけの追加座席

【ポイント】 ユーザーが Subscription と Flex の両方を持つ場合、Subscription が優先消費 (Flex トークン節約) されます。

▲ 実務チェックポイント

<input type="checkbox"/>	Autodesk 利用者を「週 3 日以上」と「非定期」に分類し、最適ライセンス種別を割り当てている
<input type="checkbox"/>	規約変更通知の受信者が定められており、30 日以内の拒否判断プロセスがある
<input type="checkbox"/>	自動更新の管理表があり、意図しない自動更新が発生しない体制がある
<input type="checkbox"/>	EBA 更新は 90~120 日前から準備を開始し、12~24 ヶ月の製品別利用実績・Token Burn Rate・非アクティブユーザーデータを準備している

第 7 章 監査対応と証跡保管

7-1. Autodesk の監査権 (Section 17.8)

【重要】Autodesk は 15 暦日（土日含む）という厳しい期限内に詳細な証跡提出を要求できる。違反は即利用停止・費用発生リスク。

監査権の内容	規定
監査形態	Remote または On-site（Autodesk が選択）
提出期限	通知から 15 暦日以内（土日祝含む）
提出情報	Machine IDs / Serial numbers / Autodesk IDs / NT/Windows usernames / Device IDs / 各 Offering に関する情報
使用ツール	Autodesk 承認ツール（Autodesk Inventory Tool: AIT）を使用して全デバイスから収集
違反時の効果	違反相当額以上の Offerings を即時購入 + 検証費用の支払い義務
違反の法的性質	重大な契約違反（material breach）→ 利用停止・解除権が発生

根拠：General Terms Section 17.8 "Verification of Compliance"（L1 確認済、2026 年 3 月 30 日）

7-2. 監査通知後の緊急対応プラン（15 日 Runbook）

日数	対応内容	担当
Day 1（即日）	Legal Hold 宣告。Autodesk 承認ツール（AIT）の入手準備開始。対象 Team/契約/デバイスのスコープ確定	法務 + IT/SAM
Day 1～3	Active Directory より NT/Windows username の一括抽出。Autodesk Account より Autodesk ID エクスポート	IT
Day 3～5	全拠点（子会社含む）の PC に対して Machine ID/Serial Number の一括収集（AIT または PowerShell 等）	IT
Day 4～7	台帳照合：Machine ID × Autodesk ID × NT/Windows username の紐付け作業	SAM + IT
Day 7～10	ギャップ特定：台帳外ソフトウェア使用の有無。不足ライセンスの特定	SAM
Day 10～12	不足ライセンスの緊急購入（Autodesk 担当者または Partner 経由）	調達 + 法務

Day 13～ 15	提出書類の最終確認・AIT 入力・Autodesk へ提出	SAM + 法務
---------------	-------------------------------	----------

7-3. 常時保管が必要な証跡（15 日即応体制）

証跡の種類	取得手段	保管期間（推奨）
Autodesk Account > Usage Report	月次エクスポート	3 年
シートの割り当て履歴（誰に・いつ・何を）	Account 履歴 + 台帳	3 年
Machine IDs / Serial Numbers	SAM ツール or PowerShell 収集	3 年
Autodesk IDs と NT/Windows username の対応表	AD + Autodesk Account	3 年
Flex トークン購入履歴・使用履歴	Account エクスポート	3 年
APS API 使用ログ	APS Dashboard / Billing	3 年
教育版ライセンスの利用者資格証明	Autodesk 承認記録	在籍中

⚠ 実務チェックポイント

<input type="checkbox"/>	監査通知受領から 15 暦日以内に証跡を提出できる担当者・手順が文書化されている
<input type="checkbox"/>	Machine IDs と NT/Windows username の自動収集スクリプト・ツールが用意されている
<input type="checkbox"/>	退職者・プロジェクト終了後のライセンス回収記録が保管されている
<input type="checkbox"/>	Section 17.8 の違反が「重大な契約違反」に直結することを経営・法務が認識している
<input type="checkbox"/>	Autodesk Inventory Tool (AIT) の入手経路を事前に確認している (License Compliance 担当経由)

第 8 章 Autodesk 固有の高リスク領域と対策

リスク 1 : Flex トークン枯渇による突然の業務停止

【リスク】 残高ゼロ → 即時アクセス停止（猶予なし）。特にプロジェクト佳境に発生すると影響大。

【対策】

- Autodesk Account でのトークン残高アラート設定
- 年間使用量予測（Estimator Tool）に基づく余裕を持った購入
- 緊急購入の社内承認ルートを事前に短縮設定（33 トークン/\$99 から即時購入可能）
- Token Flex（EBA）移行の検討（EBA が有効かつ対象 Offering 条件に従う場合に限り残高ゼロでも継続アクセス可）

【根拠】 Offering Types and Benefits / Flex ページ（L1/L2 確認済）

リスク 2 : API・RPA 経由の多重利用（Multiplexing）違反

【リスク】 1 アカウントの API アクセスを介して複数ユーザーが実質的に APS 機能を利用。Autodesk は Machine User に固有 ID 付与と個別トークン消費を要求。

【対策】

- APS を利用する社内ポータル・統合システムの接続ユーザー数をカウント
- Machine User 用の APS アカウント（Autodesk ID + APS API キー）を別途取得
- Developer Terms の適用範囲（商用開発 vs 内部利用）を法務確認

【根拠】 General Terms Section 8.3 / APS Terms（L1 確認済）

リスク 3 : AI・機械学習利用に関する AUP 違反リスク（Phase 3 修正適用済）

⚠ 重要：「AI/ML 全面禁止」は誤り。AUP Item 8 の禁止は「Autodesk Offering の機能をリバースエンジニアリングまたは複製する目的」に限定される。

【禁止される行為（AUP Item 8、L1 確認済）】

- Autodesk Offering の機能をリバースエンジニアリングまたは複製する目的での AI/ML モデル訓練
- Autodesk または第三者コンテンツの自動スクレイピング・データマイニング（AUP Item 12）

【許容される行為（Autodesk 2025 年 12 月 8 日 Terms 更新説明より）】

- 顧客が自社のモデル・データを用いた AI/ML 訓練は、Autodesk Offering のコピー/リバースエンジニアリングに該当しない限り許容される

【対策】

- AI/ML ワークフローで使用するデータの出所を特定（自社設計データ vs. Autodesk API 経由の出力）
- Autodesk API・Viewer 経由で取得したコンテンツをそのまま学習データに利用する場合は AUP Item 12 違反リスクを法務確認
- 自社 BIM データ（IFC・RVT をネイティブ保有）を Autodesk API を介さずに学習に使用する場合は、DPA・サービス規約を確認した上で許容される可能性がある

【根拠】 Acceptable Use Policy Item 8・Item 12（L1 確認済、December 8, 2025）

リスク 4 : Education 版ライセンスの業務利用

【リスク】 教育機関の施設管理部門・事務局での Education 版利用。条文で「施設管理部門での使用禁止」が明文規定。

【禁止条文（L1 確認済）】

"Education Offerings may not be used by the facilities department of a Qualified Educational Institution." — Offering Types and Benefits Section "Education"（Last updated June 7, 2026）

【対策】

- Education 版を所有する教育機関内のすべての利用部署を特定
- 施設管理・事務局・職員（研究・教育以外）への Education 版割り当てを禁止
- 対象者を Commercial サブスクリプションへ移行

リスク 5 : ID 共有・退職者 ID 放置と Usage Data 監視

【リスク】 Autodesk は NLRM/NLRS (Usage Data) でユーザーの稼働状況を自動収集・監視。ID 共有・退職者 ID 放置は技術的に検知されるリスクがある。

【対策】

- 退職・異動時の Autodesk ID 即時無効化・未割り当て化を HR プロセスと連携
- Directory Sync (Business Success Plan) による AD 連携で自動解除
- General Terms Section 4 : ID/パスワードの共有禁止が明文規定

リスク 6 : APS Data Model API 有料化対応漏れ (2026 年 8 月 17 日～)**【Phase 3 ChatGPT 独立検証により追加】**

【リスク】 2026 年 8 月 17 日から AEC Data Model APIs および Manufacturing Data Model APIs に価格が導入される。Free tier 超過分には有料 APS Offering または対象 Autodesk サブスクリプションが必要。対応漏れで API が中断するか予期しない課金が発生する。

【対策】

- Developer Hub で対象 API の使用量を確認し、Free tier 超過の有無を把握
- APS アプリを対象サブスクリプション (AEC/M&E 等) と同じ Team に配置
- Free tier 超過が予測される場合 : Prepay with Flex または Pay as You Go を設定
- EBA 顧客でも対象 Subscription を持っていない場合は消費ベース課金になる可能性があるため、Autodesk 担当者に確認

【根拠】 <https://aps.autodesk.com/blog/aps-continues-evolve-data-model-apis> (L2、Phase 3 追加)

第9章 ガバナンス体制とコスト最適化

9-1. ガバナンス RACI と Admin ロール

Autodesk 公式文書にはガバナンス RACI の規定なし（設計ギャップ）。以下は ITAM 標準（ISO/IEC 19770）に基づく推奨モデルです。

Autodesk Account 管理者ロール（公式：4 種類）

ロール	主な権限・特記事項
Primary Admin	全権限（ユーザー・製品・請求・チーム管理）。チームに1名のみ
Secondary Admin	Primary Admin に準じる（請求以外）。複数設定可
SSO Admin	シングルサインオン設定の管理。⚠ Token Flex の Usage レポートへのアクセス不可
Contract Manager / Purchaser（同一ロール）	契約・更新・追加購入の管理。地域により呼称が異なる（Contract Manager / Purchaser）

根拠：Admin Roles（autodesk.com/support/account/admin/users/roles、2026年6月26日直接確認済）。公式ページに「4 types of administrative roles」と明記。Contract Manager と Purchaser は同一ロールの地域別名称。

Autodesk ライセンス管理 RACI（推奨）

活動	ITAM/SAM	調達	Primary Admin	Secondary Admin	SSO/IAM	法務
契約更新判断	A/R	R	C	C	C	C
ユーザー割当	C	I	A/R	R	R	I
月次 ELP 分析	A/R	C	R	R	C	I
Flex Token 監視	A/R	C	R	R	I	I
APS Developer Hub 管理	C	I	C	C	C	C
Education 利用統制	A/R	C	R	R	R	C
監査対応（Section 17.8）	A/R	C	R	R	C	A/R
Terms 変更対応	R	I	C	C	I	A

凡例：R=実行、A=承認・責任、C=相談、I=情報共有

9-2. SAM 成熟度モデル（ISO/IEC 19770-1 ベース）

レベル	名称	Autodesk 管理の内容
-----	----	----------------

1	Reactive (反応型)	Autodesk Account を必要時だけ確認。監査通知で初めて対応
2	Inventory Managed	契約・Team・User・Device・Install を定期棚卸し
3	ELP Managed (推奨最低ライン)	Entitlement・Assignment・Usage・Install を月次突合
4	Integrated Governance	SSO/HR/ITSM/Procurement と連携。RACI 確立
5	Optimization Managed	Flex/Subscription/EBA/APS を需要予測で最適化。コスト最小化

9-3. コスト最適化レバナー一覧 (一次情報確認済)

レバナー	期待効果	根拠
3年サブスクリプションへの切り替え	10%割引	Plans ページ (L2)
Flex 最小購入 33 トークン/\$99 (2026年6月~)	少量試用・補完利用が低コストで可能	Flex ページ (L2)
高頻度ユーザーを Subscription へ移行	Flex トークン消費を防ぐ	Offering Types and Benefits (L1)
Subscription と Flex の組み合わせ最適化	年間 200~275 トークン/ユーザーの節約	Flex ページ (L2)
ボリュームディスカウント活用 (5,000T~)	最大 20%割引 (250,000T~)	Flex ページ (L2)
Business Success Plan 移行 (50席~)	Reporting API 獲得で SAM コスト最適化	Plans ページ (L2)
Token Flex (EBA) へ移行	残高ゼロ停止リスク排除、超過後払い可	Offering Types and Benefits (L1)
未使用シートの回収・再割り当て	不要更新コスト削減	Usage Report 活用 (L2)

EBA 交渉の準備データパック (更新 90~120 日前から準備開始)

準備すべきデータ	交渉レバナー
12~24 ヶ月の製品別利用実績	Token 単価・消費レート保護
Flex Token 消費実績と Burn Rate	超過後払い条件交渉
サブスクリプション割当・実利用・非アクティブユーザー	True Forward 頻度・価格据置
APS API 使用量・Developer Hub・Team 構成	API 容量の見積もり

BYOS 利用プロジェクト一覧	関連会社利用範囲
子会社/関連会社/外部委託先の利用スコープ	M&A 時の移管条件
今後 12~36 ヶ月の BIM/CAD/製造/APS ロードマップ	Business Success Plan API・監査協力条件

付録 A 一次情報台帳

(2026 年 6 月 26 日時点。各文書の最新版は Autodesk 公式サイトを参照のこと。)

L1 : 契約書・利用規約 (法的拘束力あり)

#	文書名	最終更新	検証状況	主要ポイント
L1-01	General Terms	2026-03-30	✓ 直接確認	Section 17.12 (優先順位)、17.8 (監査)、8.2 (自動接続)、Section 4 (ID 共有禁止)
L1-02	Special Terms	2025-12-08	✓ 直接確認	Maya/3ds Max バッチ処理、Remote Usage Rights、Usage Data (NLRM/NLRS)
L1-03	Offering Types and Benefits	2026-06-07	✓ 直接確認	Single User、Flex (残高ゼロ即停止)、Education (施設管理禁止)、Token Flex EBA
L1-04	Acceptable Use Policy	2025-12-08	✓ 直接確認	Item 3 (保護措置)、Item 8 (AI/ML 学習限定禁止)、Item 12 (スクレイピング禁止)
L1-05	Success Benefits Terms	2025-07-22	△ 未直接確認	Business Success Plan の詳細権利・EBR 条件
L1-10	Direct Order Terms	不明	X 取得不可 (JS 依存)	直接販売における注文条件

L2 : 公式サポート・価格ページ

#	文書名	検証状況	主要ポイント
L2-01	Autodesk Plans ページ	✓ 直接確認	Included/Business Success Plan/Enterprise、Reporting API・Directory Sync (Business Plan のみ)
L2-02	Autodesk Flex ページ	✓ 直接確認	最小 33T/\$99、主要製品レート、ボリュームディスカウント表、FAQ (残高ゼロ→即停止)
L2-04	APS aps ページ (aps.autodesk.com)	✓ 部分確認	Free/Prepay/PAYG 3 層確認
L2-05	Admin Roles サポート	△ JS 依存	5 ロール (Primary/Secondary/SSO/Contract Manager/Purchaser) は知識ベース文書で確認

月次モニタリング対象 URL

文書	URL	確認頻度
General Terms	autodesk.com/company/terms-of-use/en/general-terms	月次
Offering Types and Benefits	autodesk.com/company/terms-of-use/en/offering-types-and-benefits	月次
Acceptable Use Policy	autodesk.com/company/terms-of-use/en/acceptable-use	月次
Special Terms	autodesk.com/company/terms-of-use/en/special-terms	月次
Flex Rate Sheet	autodesk.com/buying/flex/flex-rate-sheet	月次（随時更新）
APS Pricing	aps.autodesk.com/pricing	月次（随時更新）

付録 B 演習シナリオ集 (4 件)

シナリオ 1 : Flex トークン枯渇による本番プロジェクト停止

難易度：★★★★☆ カバレッジポイント：②⑦⑧

【状況設定】

中規模建設設計事務所（従業員 300 名）。Revit（Single User 60 席）と AutoCAD（Flex）を利用。大型プロジェクト（病院改修）の設計佳境である月曜日の朝、AutoCAD チームの 5 名が起動しようとしたところアクセスエラーが発生。確認すると Flex トークン残高が 0 になっていた。

【問い】

1. なぜ月曜日の朝、突然アクセスできなくなったのか？
2. このリスクは契約上どこに記載されているか？
3. 即座にアクセスを回復させるにはどうすればよいか？
4. 再発防止のための管理プロセスを設計してください。

【解説と根拠】

- ① Flex Prepay は残高ゼロで即時アクセス停止（猶予なし）。根拠：Offering Types and Benefits Section 'Flex' 「If Your Flex token balance reaches zero (0)... you may not access and use such Flex Offerings.」
- ② 根拠条文：Offering Types and Benefits（Flex Section） / Flex ページ FAQ 「users will lose access to Flex and will be unable to open the product」
- ③ 即時回復：最小 33 トークン（\$99）から即時購入可能。購入後 Autodesk Account に即時または数時間以内に反映。
- ④ 再発防止：残高低下通知設定、月次定期確認、Estimator Tool による年間使用量予測、緊急購入の承認経路短縮、Token Flex（EBA）への移行検討（大量利用企業向け）。

【学習ポイント】

Flex Prepay ≠ サブスクリプション：残高ゼロで「即時停止」、猶予なし Token Flex（EBA）は残高ゼロでも継続可能（後払い）→大量利用企業は EBA を検討 12 ヶ月有効期限は「購入日から」→大量一括購入より複数回に分けた購入が有効

シナリオ 2 : 監査通知から 15 日以内の証跡提出要求

難易度：★★★★☆ カバレッジポイント：④⑦⑧

【状況設定】

大手製造業グループ（従業員 5,000 名、Autodesk 利用者 800 名）。Inventor・AutoCAD・3ds Max（Single User サブスクリプション混在）。3 年前の子会社統合後、台帳整備が未完了。月曜日の朝、Autodesk から Section 17.8 に基づく「15 暦日以内に Machine IDs, Serial numbers, Autodesk IDs, NT/Windows usernames, Device IDs を提出するよう」要請書が届いた。IT 部門確認で、台帳なし・Machine ID 一覧なし・username 紐付けなしが判明。

【問い】

5. Autodesk はなぜこの情報を要求できるのか？根拠条文はどこか？
6. 15 日以内に提出できない場合、何が起きるか？
7. 15 日以内に提出するための緊急対応計画を立案してください。
8. 今後の再発防止として、どのような証跡保管体制を整備すべきか？

【解説と根拠】

- ① 根拠：General Terms Section 17.8（L1 確認済）「Autodesk reserves the right to verify Your compliance... may conduct a remote or on-site audit.」提出期限は 15 暦日（土日祝含む）。
- ② 提出できない場合：Section 17.8 違反は「重大な契約違反（material breach）」→利用停止・契約解除権の発生。不足ライセンス相当額の即時購入 + 検証費用支払い義務。

- ③ 緊急対応：第 7 章の 15 日 Runbook 参照（Day 1 から Day 15 の段階的対応計画）。
- ④ 再発防止：Machine IDs・Serial Numbers は SAM ツールまたは PowerShell で月次自動収集、NT/Windows username と Autodesk ID の対応表は HR と Autodesk Account を連携、Usage Report は月次エクスポート・3 年保管。

【学習ポイント】

15 暦日（土日含む）は非常に短い→事前整備なしでは対応不可 Section 17.8 違反は「重大な契約違反」→利用停止・解除・費用発生のトリプルリスク 子会社統合・M&A 時には必ず Autodesk ライセンスの棚卸しを実施すること Autodesk 承認ツール（AIT）の使用が義務：独自ツールでは受け付けてもらえない可能性あり

シナリオ 3：Education 版の施設管理業務への流用

難易度：★★☆☆☆ カバレッジポイント：②⑨

【状況設定】

国立大学（教職員 2,000 名、学生 20,000 名）。Autodesk Education 版ライセンスを大学全体で利用。IT 部門が利用状況を調査した結果、施設管理部（キャンパス施設の維持管理担当）が AutoCAD Education 版を使って施設の図面管理・工事発注図書を作成（年間 200 時間以上）、事務局が組織図・フロアマップを作成していることが判明。Autodesk から「Education 版の利用実態調査に応じるよう」要請が届いた。

【問い】

9. 上記の利用は Autodesk 規約上、許可されているか？根拠条文はどこか？
10. もし違反だった場合、大学側はどのような対応が必要か？
11. Education 版を保有する組織が整備すべき管理手順を提案してください。

【解説と根拠】

- ① 根拠条文（L1 確認済）：Offering Types and Benefits Section 'Education'（Last updated June 7, 2026）

"Education Offerings may not be used by the facilities department of a Qualified Educational Institution."

施設管理部の使用は「facilities management」として明示的に禁止（明確な違反）。事務局の使用は「professional purposes」「for-profit purposes」に該当の可能性（違反の可能性が高い）。

- ② 対応：即時利用停止、Commercial ライセンス取得（施設管理部は AutoCAD Single User 商用版）、Autodesk への自己申告（法務連携）、大学全体の Education 版利用者棚卸し。

【学習ポイント】

Education 版は「施設管理部門での使用禁止」が条文に明記（曖昧な解釈余地なし）大学・学校法人の Education 版は「全学利用許可」ではない→部署・職種別の管理が必要 Education 版の違反は商用ライセンスへの差額支払い+適及的な利用期間の商用換算リスク

シナリオ 4：APS 多重利用（Multiplexing）違反と生成 AI 統合リスク

難易度：★★★★☆ カバレッジポイント：③⑥⑨

【状況設定】

建設テック系 IT 企業（従業員 150 名）。APS Free Access を使って社内 BIM 閲覧ポータルを構築（従業員 50 名が利用、社内 AD 認証）。生成 AI チームが BIM データを使って AI アシスタント（建物情報検索・自動レポート生成）を開発中。学習データとして Autodesk Viewer で表示した建物属性データを利用する計画がある。問題：① Free 枠 API が月次上限に達しポータルがブロック。② AI アシスタント開発チームが「Autodesk データを学習に使うって大丈夫か？」と法務に問い合わせ。

【問い】

12. 社内ポータルの構築は、現在の APS 利用条件（Free Access）で適切か？
13. 生成 AI モデルへの Autodesk データ利用は規約上許可されているか？
14. 合法的な APS 活用のために、どのような対応が必要か？

【解説と根拠】

① 社内ポータルは「内部ビジネス利用」で APS Free は可。ただし Free tier 月次上限があり（現在ブロック発生中）。2026 年 8 月 17 日以降は Data Model API が有料化。対応：Prepay（Flex）または Pay as You Go へ移行。

② AI/ML 学習について（Phase 3 修正済 — AI/ML 全面禁止は誤り）：

禁止（AUP Item 8）：Autodesk Offering の機能をリバースエンジニアリングまたは複製する目的での AI/ML 訓練禁止（AUP Item 12）：Autodesk コンテンツの Automatic スクレイピング・データマイニング許容（2025 年 12 月 8 日 Terms 更新説明）：顧客が自社のモデル・データを用いた AI/ML 訓練は、Autodesk Offering のコピー/リバースエンジニアリングに該当しない限り許容される

「Autodesk Viewer で表示した建物属性データ」を直接スクレイピングして学習データとする行為は AUP Item 12 違反リスクが高い。一方、顧客が自社で保有する IFC/RVT ファイルを Autodesk API を介さずに学習データとして使用することは、DPA・契約条件を確認した上で許容される可能性がある。

【学習ポイント】

APS Free は「実験・PoC 用」。社内業務利用は Prepay または PAYG へ移行が必要 AI/ML 全面禁止は誤り：AUP Item 8 は「Autodesk Offering 機能複製・リバースエンジニアリング目的の訓練」を禁止。顧客自身のモデル・データでの訓練は条件付き許容 2026 年 8 月 17 日の APS Data Model API 変更は既存システムへの影響を事前確認すること 商用アプリ開発（外部向け SaaS 等）には Developer Terms の締結が必要（APS Terms と二重適用）

付録 C 12 ポイント評価チェックシート

#	評価観点	Phase 2A 判定	主要証跡 (Section)
①	契約文書の体系と優先順位	◎	General Terms Section 17.12
②	ライセンスメトリック体系・算定方法	◎	Offering Types and Benefits 全セクション
③	仮想化/クラウドインフラとライセンスの連動ルール	◎	Offering Types and Benefits / Special Terms
④	必須計測・管理ツールの義務と法的根拠	◎	General Terms Section 8.2 / AUP Item 3
⑤	エンタイトルメント台帳・ELP 管理	○	Plans ページ (Usage Reporting / Reporting API)
⑥	クラウド固有ライセンスルール (BYOS/APS)	◎	Offering Types and Benefits APS Section
⑦	契約ライフサイクル・更新プロセス	◎	General Terms Section 17.2
⑧	監査条項・証跡保管義務	◎	General Terms Section 17.8 (15 暦日提出義務)
⑨	Autodesk 固有の高リスク・コンプライアンス領域	◎	Acceptable Use Policy / Education Section
⑩	ガバナンス体制 (RACI・会議体・成熟度モデル)	△	設計ギャップ → 付録 C 9-1 で実務補完済 (ITAM 標準)
⑪	ベンダー交渉・コスト最適化レバレッジ	○	Flex/Plans ページ / Offering Types and Benefits
⑫	一次情報のモニタリング・改訂管理	○	General Terms Section 17.2 / 付録 A 台帳

判定凡例：◎=一次情報 (L1/L2) で直接確認済 / ○=一次情報で大部分確認済 (一部ギャップあり) / △=設計ギャップ (実務補完済)

判定	件数
◎ (一次情報確認済)	8
○ (一部ギャップあり)	3
△ (実務補完済)	1
- (未対応)	0

